平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号）	提案機関名	農業振興課
8 ※記入不要		

要望問題
バラの新たな仕立て法の開発

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

１、背景
　県下バラ農家では、切り上げ、アーチング、ハイラックなどを基本として、試行錯誤しながらそれらに改良を加えた様々な仕立て法が実施されている。これらの仕立て法の特徴を明らかにして、剪定、整枝等にさらに改良を加えれば、生産性の一層の向上が期待できる。
　バラ農家１００戸　２２ｈａ

２、要望内容
(1)県下バラ農家で実施されている仕立て法の生産性比較
(2)剪定、整枝方法、栽植密度などに改良を加えた新たな仕立て法の開発

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：	生物資源部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名　(①、②、④の場合)
高品質・低コスト安定生産のための技術開発

対応の内容等

　バラの仕立て法の開発については、各県で研究されており、切り上げ栽培、ハイラック仕立て、アーチング栽培、ソーラーローズシステム、１本残し剪定など様々な仕立て方が考案・普及しています。しかしながら、これらの栽培法について県内で比較栽培しているほ場はなく、生産性が高く、省力的な仕立て法の実証ついて、県内の生産者からの要望が寄せられています。
　農業総合研究所では、これら新しい仕立て方について情報を収集し、技術研究会等で情報提供・検討を行ってきました。その中で要望の高かった、土耕栽培における切り上げ栽培、ハイラック仕立て、ソーラーローズシステムについて生産性の比較を検討します。
　また、新たな仕立て方の開発については、神奈川県の気候と生産者の労働力、品種構成、販売方法等を考慮して、従来の仕立て法を改良していきます。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	